

令和元年度 第2回 鶴岡市地域医療を考える市民委員会 (会議概要)

- 日 時 令和2年 3月16日(月) 午後1時30分から3時30分
- 会 場 鶴岡市保健福祉センターにこふる 3階 大会議室
- 次 第
 - 1 開会
 - 2 市長あいさつ
 - 3 説明・報告・協議
 - (1) 講 話 「庄内の地域医療と荘内病院の役割」
鶴岡市立荘内病院 院長 鈴木 聡
 - (2) 活動紹介「荘内病院の明日を考える会」の開催報告
株式会社 瀬尾医療連携事務所 代表取締役 瀬尾 利加子
 - (3) グループワーク
 - 4 その他
 - 5 閉会
- 出席委員
瀬尾利加子(委員長)、本間志保子(副委員長)、北風寸美、木村博之、佐藤明美、土田三香子、原田藤四郎、本間優子、真島正博、水口英俊、秋山美紀(コーディネーター)、鈴木千晴(オブザーバー)、三科武(オブザーバー)、鈴木聡(オブザーバー)
- 市側出席職員
市長 皆川治、健康福祉部長 白幡俊、健康福祉部次長兼地域包括ケア推進室長 渡邊健、地域包括ケア推進室主査 剣持健志、同室調整専門員 佐藤正、同室専門員 帯谷友洋、同室主事 五十嵐貴明、荘内病院副院長兼地域医療連携室長 吉田宏、同院事務部長 土屋清光、同参事兼地域医療連携室主幹兼医事課長 菅原広光、同参事兼総務課長 今野一夫、同地域医療連携室室長補佐兼看護主査 富樫清
- 公開・非公開の別 公開
- 傍聴者の人数 10人
- 審議事項(グループワーク)
グループワーク1 テーマ:「荘内病院への疑問・質問について」
グループワーク2 テーマ:「地域医療の課題を解決するために私たちは何をすべきか考える」
- 発言要旨
グループワーク1 「荘内病院への疑問・質問について」
質問: 荘内病院では看護師が不足しているのか教えてほしい。また、荘内病院として新人の看護学生を確保するための対策は何かしているか。
回答: 医師不足とともに、看護師不足も荘内病院の抱える大きな問題だ。荘内看護専門学校の卒業生20名に対し、鶴岡市内に就職する人が多くないことから、なぜ市内に残らないのかというアンケートをとり、教育方法等に問題点はないかについても、今後考えていく。看護師の数はもっといればというのが正直なところ。制度を活用して、夜勤

を免除する看護師が増えているが、一部の方の夜勤回数が増えるという別の意味での問題が発生している。看護人員の確保としては、昨年度より少し多い人員を新年度に確保できる予定だ。看護師を目指す学生に関しては、大学志向が非常に高まっており、県外の大学に入学して地元に戻って来ない状況にあるので県内就職に繋がるような取り組みをこれからもやっていきたい。

質問： 荘内病院が同規模の病院より医師数が 20 名程度少ないことに驚いた。どうして医者が少ないのか。医師を目指す人が少なくなったのか。それとも鶴岡だけ少ないのか。荘内病院で 20 名程度不足しているのであれば何か対策を取っているのか。看護師のお子さんをみてる学童などが院内にあれば、看護師を集めることができるのではないのか。どんな手立てを考えているのか、具体的に伺いたい。

回答： 医師不足については、一番の原因は新しい研修医制度ができたことで、自由に病院を選べることだと思う。一方でいろいろな勉強ができ、自由に場所を選べるというメリットもある。医師が地方にはいなくて中央にはいっぱいいる。何とか、医師の多いところ少ないところを是正してくれるような仕組み、国の施策が必要ではないかと思う。荘内病院の医師修学資金貸与制度、現在 11 名が対象だが、少しずつそれらの方々が荘内病院にきてもらって、医師不足を解消してくれるのではないかと思っている。「医者が少ないから来て下さい」と言っても来てくれない。「荘内病院に来てくれたらこんなことができますよ」、「このようなことが学んで帰れます」というのを考えていく必要がある。根本的な問題として、魅力ある診療科や診療技術を考えていかなければならない。

質問： 鶴岡市の姉妹都市があるが、合併前の旧町村の姉妹都市も含め病院と連携、短期的に医師を派遣してもらえないか。

回答： 今までいろいろな関わりを持った関係機関に相談して医師の派遣をお願いしている。たとえば、国立がん研究センター東病院。「緩和ケア普及のための地域プロジェクト」(OPTIM) を一緒に行っていた関係で、交流がある。鶴岡とはいろいろな面で関わりがあって、医師不足の件でもいろいろ相談にのってもらっている。そのいろんなちょっとした何気ない関係性でも、そこを大切に今後進めていきたい。「荘内病院に来れば、鶴岡に来ればこんなことができますよ」というところを共有した上で、お互いがウインウインになるような関係にする。派遣するだけならメリットがないので、荘内病院としても派遣先としてもお互いに利益があるような対等な形で交渉できればよいと思う。

提案いただいた姉妹都市との連携については、医師不足で大変なところもあり、それら情報を持ち合わせてないところもある。

グループワーク 2 「地域医療の課題を解決するために私たちは何をすべきか考える」

- ・ 自宅に退院するとき家族だけの支援では足りないところがある。その調整が非常に難しい。まずは、地域の人たちがみな顔見知りであることが必要。そして地域全体で

退院した方の状況を把握して、その家庭に1日1回でも声をかけられるようになれば良いのではないかと思います。

- ・病院の病床削減や規模縮小が行われているが、市民に知らせる機会を設ける必要があると考えている。また、各病院、診療所、クリニックなどの現状を報告する機会もあると良い。
- ・地域医療について、正しい情報をいかに広く市民に発信するかが重要ではないか。例えば、荘内病院にNICUがあり、安心して鶴岡で出産できますよという宣伝など。
- ・安心して出産、子育てができる体制が鶴岡にあることをPRして、ぜひ、二人、三人目と安心して産んでくださいと言えれば良い。
- ・地域医療に関して、市民の声をもっと集めてみてはどうか。市民の声を集めるアンケートを実施し、市民はどのように考えるのか、不満を持っている人、満足している人、いろいろいると思うが、この市民委員会委員の所属する団体からだけでも集めたらどうか。
- ・病院と診療所の診療科別医師の数や常勤医と非常勤医の数など、できれば、年齢などのデータを次回委員会まで提示いただければ、地域の医療資源の可視化ができると思う。

次回委員会での検討事項

- ① 地域医療の現状を知る市民勉強会の開催
- ② 病院や診療所の現状を知るためのデータ収集
- ③ 市民の声を広く集めるためのアンケートの実施